

平成28年度第2回川崎市政策評価審査委員会 摘録

- 1 開催日時 平成29年3月2日(木) 18時30分～20時30分
- 2 開催場所 川崎市役所第3庁舎15階 第2会議室
- 3 出席者 委員 中井委員長、川崎副委員長、窪田委員、黒岩委員、松井委員、
米原委員、井上委員、長野委員、松本委員
総務企画局都市政策部 北部長
総務企画局都市政策部企画調整課 阿部課長
総務企画局都市政策部企画調整課 三田村担当課長
総務企画局都市政策部企画調整課 宮崎担当課長
総務企画局行政改革マネジメント推進室 前田担当課長
財政局財政部財政課 神山担当課長
事務局 総務企画局都市政策部企画調整課
今村担当課長、菊池担当係長、小西職員
- 4 議 事
 - (1) 部会構成等について
 - (2) 部会の審議の進め方について
 - (3) 部会で重点的に審議する施策の選定について
 - (4) その他
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容

議事(1) 部会構成等について

部会の名称と部会長について、原案通り了承された。

議事(2) 部会の審議の進め方について

事務局から議題(2)に関連する資料について説明

長野委員) 資料4-5の「2 審議結果」の記載は、定性的でわかりづらいのではないかと。この文章からは、妥当性だけを判断するような感じを受ける。これでは、次のページでは、妥当な理由を書くのか、妥当ではない理由を書くのかが、わかりづらい。

今村担当課長) まずは妥当か、妥当でないかという視点で御意見を伺いたい。付帯意見を委員会からいただきたいと考えており、妥当であれば「工夫を要する」などの視点で、妥当でなければその理由を示していただいたうえで、施策全体としての御意見をいただきたいと考えている。

長野委員) 数値化して施策の評価をしようとしているにも関わらず、審議結果が、妥当か妥当でないかという定性的な評価になるのはもったいない。数字と結びつけた審議結果にしたほうがよいのではないか。

川崎副委員長) やらなければならないことは、資料4-1や資料4-3のような行政から出てきたものが妥当かどうかということ判断することである。出てきた数字を元に行行政が判断したものが妥当かどうかを、我々委員が判断しなければならない。各部会で、それぞれの施策について、資料3にあるような、内部評価が妥当か、方向性が妥当かどうかを判断しなければならない。そこで、成果指標や定性的な部分などを、第三者として鑑みて妥当かどうかという判断になってくるのではないか。そのため、資料4-5の書き方としては、全部をざっくりと記載するというよりは、個々に記載しておかないと難しいと考えている。

窪田委員) 資料4-5についてであるが、最初の6行の文書の中に73施策から12施策を選んだ理由・背景・観点、また、12の施策を選んだことについて、行政が選んだものを委員会として受け取るのか、委員会が主体的に選んだという形にするのか、つまり、行政側の責任とするのか、委員会で引き取るのか整理し、記載したほうがよい。

中井委員長) 資料4-5に12施策を選んだプロセスを記載していただきたい。

今村担当課長) 了解した。

松井委員) 各所管で作成する資料4-2は、この委員会のためだけに作成するのか。もしそうであれば、時間ももったいないのではないか。

今村担当課長) 事務局としても、この資料作成にあまり多くの時間や手間をかけることがよいとは考えていない。そのような観点から、共通フォーマットを作成したり、基本的には資料4-1からの転記、及び既存資料を活用することにより、事務の簡素化を図っていきたい。なお、この資料はホームページで市民に公開する予定である。

米原委員) 部会の主旨としては、1つひとつの取組の中身ではなくて、あくまで内部評価の結果、内部評価の判断の仕方が妥当かどうかを確認するということがよいか。30分かけて議論していると、中身の話になっていくことがあるのではないかと考えているが、方向としては、内部評価の評価結果が妥当かどうかを評価するということがよいか。

今村担当課長) そのとおりである。あわせて、施策を一層効果的にするの御助言をいただきたい。

中井委員長) 資料4-5の個別施策の付帯意見が数行しかないが、場合によっては長くなることもあり得ると思う。そこで、基本的に各部局に政策評価審査委員会として伝えたいことは、書き込んでいくということによろしいのではないか。その際、皆で議論して、委員会の権限を越えているだろうという記載については、その段階で判断いただければよいのではないか。経験上、そんなに違いはなく落ち着くと思うが、一回目でもあり、とりあえずやってみないとわからない部分もある。

議事(3) 部会で重点的に審議する施策の選定について

事務局から議題(3)に関連する資料について説明

中井委員長) 第1部会の施策選定から始めたい。

黒岩委員) 内部評価の仕方が、仮判定が出たうえでの自己評価ということであれば、委員が何を評価するのかということにも関わってくると思うが、例えば、内部評価の成果指標自体の目標値を見直した方がよいのではないか、もともとの設定がおかしかったのではないか、成果指標にこういうものを加えた方がよかったのではないか、加えたらこういうようになる、というようなことが、事務局の言う施策の方向性、助言ということによいか。

今村担当課長) 成果指標は議会への説明等を経て設定したものであり、直ちに見直しをすることは難しい面もあると考えている。例えば、このような成果指標を設定した方が望ましいというものがあれば、御意見をいただきたい。

米原委員) 施策2-2-1「生きる力を伸ばし、人間としての在り方生き方の軸をつくる教育の推進」を選定した理由は何か。

今村担当課長) 習熟の程度に応じたきめ細かな指導の充実ということで、モデル的に取り組んでいること、また、中学校完全給食も重点的に取り組んでいることなどを理由として、候補にしている。また、分野別の全体的なバランスも考慮している。

黒岩委員) 社会問題的にみると、中学生死亡事件などは、社会的ニーズがあると考えますが、住民目線で、身近なところでという観点で選んだと解釈すればよいのか。

今村担当課長) 当該事件については、専門家などからの意見も踏まえ、市として再発防止策を取りまとめた経緯があり、現在、それに基づいた取組を進めている状況がある。

長野委員) 施策2-1-1「子育てを社会全体で支える取組の推進」、又は、施策2-1-2「質の高い保育・幼児教育の推進」に代えて、施策2-1-3「子どものすこやかな成長の促進」を選定してみたいがどうか。

米原委員) 政策評価の最終的な目的は、その成果が生きているところにあると思うので、委員の興味・関心というのも重要なファクターだが、川崎市の政策にとってこういうところでフィードバックが欲しいというようなニーズベースで事務局案を示されているのではないかと思う。川崎市がどちらでもよいというのであれば、委員の関心の強い施策を取り上げればよいと考えている。

今村担当課長) 「市が重点的に取り組んでいる」という視点を考えた場合、総合計画の中に10年戦略というものがあり、施策2-1-1と2-1-2はこの中に位置付けられており、そういう点では、市としては選定する必要性は高いと考えている。一方、施策2-1-3については、10年戦略に入っていない。また、小児医療費助成や待機児童対策については、現在、喫緊の課題となっており、こういう施策を取り上げて御意見をいただければ、大変効果的であると考えている。

井上委員) 行政がこれらを選定したのは、市としての長い間の経過を考慮した結果もあると思う。

長野委員) 施策2-1-3は来年度、審議する候補として残してほしい。

中井委員長) 第1部会で重点的に審議する施策は、施策1-4-1「総合的なケアの推進」、2-1-1「子育てを社会全体で支える取組の推進」、2-1-2「質の高い保育・幼児教育の推進」、2-2-1『「生きる力」を伸ばして、人間としての在り方生き方の軸をつくる教育の推進』とする。次に、第2部会の施策選定を行う。

窪田委員) 施策3-3-2「魅力ある公園緑地等の整備」を選定した理由は何か。

宮崎担当課長) 3大公園緑地を積極的にリニューアルしていくということなど、これまで公園行政の中であまり打ち出してなかった取組を数年間でやってきている。市民の憩いの場として、緑は非常に重要だという位置付けでやっている。

窪田委員) 施策3-3-2の成果指標「一人当たりの公園緑地面積」を見たときに、どんな議論になるのか想像がつかない。部会で成果指標の内容について議論をしてもよいのか。

宮崎担当課長) 問題ない。

窪田委員) 施策1-2-3「ユニバーサルデザインのまちづくりの推進」だが、ユニバーサルデザインはだいたいPDCAサイクルを部局で行っているので、選定外となる区分「イ」に当てはまると思う。また、成果指標「市内法人タクシーに占めるユニバーサルデザインタクシーの割合」だが、この割合を高めるのであれば、予算をつければ高めることができると思うので、改めてここで議論する意味がどこにあるのかわからない。施策4-5-1「魅力にあふれた広域拠点の形成」や施策4-7-4「市バスの輸送サービスの充実」はどのような施策なのか。

宮崎担当課長) 施策1-2-3は、施策として遅れている部分もあれば、バリアフリーについては公共事業評価で行っていることもあり、事務局案に入れるのに悩んだ部分もあった。一方、施策4-5-1は公共事業評価でほぼやっているため、部会で取り上げる案件ではないと考えている。また、施策4-7-4は交通局の市バスの事業が全て入っているので、大きな枠ではあるが、一つのモデルケースとしてこれを取り上げることはあり得ると考えている。

長野委員) 施策3-3-2は成果指標が一つなので、追加した方がよいのではないかと。他にどのような指標が考えられるのか。

米原委員) アクセス指標や公園の安全・安心に関する指標などが考えられる。

長野委員) そのような指標が考えられるのであれば、成果指標を追加するために部会で審議する案件として上げた方がよいのではないかと。

宮崎担当課長) 現在、緑の基本計画を改定中であり、こういう指標がないとダメではないかというアドバイスをいただければ、改定作業の中で、庁内調整をして検討することもできるのではないかと考えている。

中井委員長) 第2部会で重点的に審議する施策は、施策1-1-1「災害・危機事象に備える対策の推進」、1-1-4「消防力の総合的な強化」、1-2-3「ユニバーサルデザインのまちづくり」、3-3-2「魅力ある公園緑地等の整備」とする。次に、第3部会の施策選定を行う。

松井委員) 事務局案でよいと考える。

松井委員) 総合計画258ページの小売業の年間商品販売額のグラフについて、隔年でのデータを出していただきたい。

阿部課長) 商業統計調査は、政府統計でこのタイミングで統計調査が行われており、他の出典と合わせてお示しするような工夫ができれば提示したい。

中井委員長) 第3部会で重点的に審議する施策は、施策4-1-2「魅力と活力のある商業地域の形成」、4-4-1「臨海部の戦略的な産業集積と基本整備」、4-8-1「スポーツのまちづくりの推進」、5-2-2「男女共同参画社会の形成に向けた施策の推進」とする。

川崎副委員長) 来年度以降の話であるが、資料5の選定外となる区分で、「ア」で達成状況区分がずっとA若しくはBというのは目標設定がどうなのかという話だし、ずっと「ウ」というのは、ずっと把握できないことで問題であるし、「エ」で例えば、終了に40年かかるという、そもそも目標設定としてどうなのかという議論になる。ずっと機械的評価を行って同じ判定になるものは、最後に洗い出しをして、目標設定としてどうなのかということを委員会として議論したほうがよい。

議事(4) その他

- ・行政改革マネジメント推進室より、参考資料1及び2について説明があった。
- ・部会開催日の日程調整を行った。